異端の抹殺者

鈴煉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
異端の抹殺者

【Ｎコード】
Ｎ１９９９Ｚ

【作者名】
鈴煉

【あらすじ】
日々依頼を受け異端な力を持つ者達を抹殺する八雲井。
その日も能力者抹殺に赴く彼だったが…

1

高級住宅や高層ビルが軒を連ねる或華菜町。
様々な欲望が渦巻くこの町の中に一際目立つ真黒なビルが聳え立っている。
ビルの入口には屈強なＳＰ達が厳重に警備し、他を寄せ付けない雰囲気を放っている。
だが人混みの中から１人の若い男が現れビルへと歩み寄ると、ＳＰ達は左右に別れ道を開けた。
常に無表情なこの男は黒髪で目が隠れており、スーツの上にコートを羽織っている。
男はビルの中へ入り、僅か１ｍ先にあるエレベーターに乗り３６Ｆのボタンを押す。
穏やかな速度で３６Ｆまで上昇したエレベーターは機械音と共に扉を開く。
男がエレベーターを降りた先には狭い一本道の通路のみで行き止まりには大きな扉があるのみとなっており、彼は冷たい足音を響かせながら徐に扉を開けて中へと足を踏み入れた。
扉を開けた先には奥行きのある広い空間にぽつりと置かれた来客用のソファーに腰掛けた一人の少女がゆったりと紅茶を飲んでいる。
少女は赤い瞳をした金髪のポニーテールで、純白のワンピースを着ている。
彼女は入室した男を見るなり不敵な笑みを浮かべ手招きをした。
「私の姿に見惚れるのも構いませんが、早くこちらにお座りになられてくださるかしら？」
「…」

少女に促され男はソファーへと腰掛けた。
すると少女に紅茶を差し出されるが彼はそれに手を付ける事も無く唯紅茶を啜る彼女を見つめる。
いや、正確には彼女の方へと目を向けているだけで実際は遠い何処かを見つめている様だった。
紅茶を飲み終えた少女はティーカップを机の上に置き、机の上にあるファイルから徐に1枚の書類を男に渡す。

「これが今回の抹殺対象の煉谷海都（ねりやかいと）、吸血鬼ですわ。まぁ百戦錬磨の八雲井様には少し簡単過ぎるかも知れませんけど。」

「…報酬は幾ら出す？吸血鬼は命の危険が伴う、もし足元を見る様な額を言えばお前の首を刎ねる…」

「フフ、あなた様に殺されるのなら本望ですわ？但し“殺せたら”ですけど。では先ず前払いで５００万お支払いましょう。もし抹殺に成功すればもう５００万で如何でしょうか？」

「…それで構わない、明日必ずここに獲物の首を持って来よう…」

少女は金庫から札束を取り出し、男に渡す。
それを数え５００万円ある事を確認した男は無言で扉を開けて出て行った。
ここは特殊能力抹殺組織――通称ＳＡＥＯ（Ｓｐｅｃｉａｌ　Ａｂｉｌｉｔｙ　Ｅｒａｓｕｒｅ　Ｏｒｇａｎｉｚａｔｉｏｎ）は超能力者や魔術師等、異端な存在を抹殺し社会的混乱を未然に防ぐ目的で日本政府により設立された。
ＳＡＥＯは先程の少女、不死川（しなずがわ）美瑠麻（みるま）のみが所属し全てのＳＡＥＯに関わる情報を支配・管理している。
そして男の名は八雲井直樹（やくもいなおき）、暗殺者としての腕を買われ美瑠麻と契

約を結び日々異端者を抹殺している。

2

今回の八雲井の標的である煉谷海都は都内の蒼林高校に通う一見何処にでもいる高校生だが、夜な夜な外出しては若い女性を襲い生き血を吸っている。
吸血鬼――それは元々人間であった者達が突然変異により異形な存在へと変貌した生物である。
吸血鬼と呼ばれる者達は遥か以前は言い伝え通り陽の光を弱点としていたが、長い年月を重ね人間と交配して行く内に耐性が生まれ克服をした。
彼等は人間を遥かに凌ぐ身体能力を持つが、それ故に毎日血液を搾取しなければ生きられない。
不死川から依頼を受けた翌日、八雲井は煉谷海都を抹殺する為に蒼林高校に赴く。
八雲井は校門から煉谷海都が出て来るのを待ち構えていると、同級生と思しき女子生徒と共に談笑しながら現れた。
そのまま何処かへ向かって歩いて行く2人を八雲井は細心の注意を払いながら尾行していると、2人はカラオケボックスの前で歩みを止めた。

「愛美と一緒にカラオケ行くの久々だよな。」

「そーだっけ？とにかく入ろ入ろ！」

煉谷海都と仲睦まじく話す少女の名は栃原愛美、不死川が八雲井に渡した標的情報の書類の交友関係の欄に名前が記載されていた人物である。
2人はカラオケボックスの中へと姿を消し、それから約3時間後に満足した表情で2人がカラオケボックスから出て来た。

これから自分が殺される事も知らずに微笑んでいる煉谷海都を八雲井は哀れんだ瞳で眺めていると、２人は歩み始め彼は再び尾行を開始した。
この時外は陽が落ちて真っ暗になっており、煉谷海都はいつ栃原愛美を襲っても可笑しくは無い状況になっている。
２人は次第に人気の無い暗い道を歩いて行き、静寂な公園へと足を踏み入れブランコに座った。

「愛美…お前に聞きたい事があるんだけどＹＥＳかＮＯで答えてくれないか？」

「良いよ、早く言って？」

「あ、あぁ。愛美はさ、その…俺の事――！そこにいるのは誰だ！？」

草陰から剣を携え首を刎ねる機会を窺っていた八雲井の殺気に感付いたのか、煉谷海都は真剣な面持ちで八雲井が潜む方へと声を荒げて叫んだ。
それに答える様に八雲井は煉谷海都の前に現れ刀身を彼に向けると、栃原愛美は涙目になり震えて煉谷海都の背中に抱き付いた。
煉谷海都はそんな彼女の頭を撫で耳元で何かを囁くと、彼女は頬を赤らめ頷いて彼から遠くへ離れた。

「…煉谷海都…お前を抹殺する…」

「お前何なんだよ？俺を何の為に狙う？」

「…語る必要は無い。俺はお前を殺し、お前は俺に殺されるだけだ…」

無情な言葉を吐き捨て、八雲井は煉谷海都に斬り掛かる。
だが煉谷海都は人間技とは思え無い速さで八雲井の背後に周り込み、
右足で彼を１０ｍ先まで蹴り飛ばす。
蹴り飛ばされた八雲井がむくりと立ち上がり辺りを見渡すが煉谷海
都と栃原愛美の姿を既に何処にも無かった。

3

八雲井の前から行方を晦ませた煉谷海都と栃原愛美は、閑静な住宅街を無我夢中で逃亡していた。
2人の間に交わされる言葉は無い、全ては引き攣った表情が物語っているからだ。
人気の無い交差点を渡り切った先には交番が見え、2人はほっと胸を撫で下ろし中へと入った。
交番の中には1人の警官がペンを持って席に座っているのだが、2人が話し掛けても硬直した様に動かず返事が返って来ない。
煉谷海都は無反応な警官に腹を立て肩を掴み激しく揺らすと彼はそのまま床に倒れ込み、口から血が溢れ出た。
実は警官含めこの区域の人間は目撃者となり得る可能性から八雲井によって全員殺害されており、2人は完全に包囲され追い詰められている。

「し、死んでる…！？」

「さっきから車も人もいないしおまけに携帯だって繋がらない…何か変だよこの街。ねぇ海都、私達…殺されちゃうのかな？」

「馬鹿！縁起でも無い事言うなよ！？ほらさっさと行くぞ？」

「グスッ…うん…」

交番を後にし怯えながら歩く2人に襲い掛かるかの如く季節外れの突風が吹き、思わず目を瞑る。
風の勢いが衰えたのを確認した2人がゆっくりと目を開くと遠い彼方に黒い人影が立っており、ぎらりと煌めく刃を携えている。

その人影を見た2人の顔は蒼白となり絶叫しながら出鱈目に走り出す。
だが何処へ逃げても目の前に八雲井が待ち構え、逃げ切る事は不可能だった。
そして遂に八雲井は2人を行き止まりの路地に追い詰め、命乞いをする煉谷海都の首を容赦無く切り落とした。
それを呆然と見ていた栃原愛美は首が失われた胴体から噴出される大量の返り血で真っ赤に染まり、断末魔にも似た声で泣き叫んだ。
「人殺し人殺し人殺しっ！海都が…海都が何したって言うのよ…っ！？」
「…例えその問いに答えたとして、お前はそいつが殺された事に納得するのか…？だが安心しろ、お前も同じ所に案内してやる…」
「海都…次に生まれ変わったら、またデートしようね――」
八雲井は剣で栃原愛美の心臓を突き指し絶命させ、転がっている煉谷海都の頭部を拾いバッグに積め立ち去った。
標的の抹殺が完了した八雲井は報酬を受け取る為ＳＡＥＯ本部へと訪れた。
室内では不死川が携帯電話で誰かと通話しながら窓の外の夜景を眺めている。
八雲井は黙ってソファーに腰掛け、机の上に煉谷海都の頭部が入ったバッグを置いた。
すると不死川は耳元から携帯を離し怪訝な表情で八雲井の前に腰掛けた。
「八雲井様、あなたにはいつも感謝していますが一般人を巻き込むのはご遠慮して頂けないかしら？」

「…その為にお前の能力があるのだろう…？約束通り煉谷海都の首を持って来た、確認しろ…」

「ふふ、八雲井さんは乙女にこんな醜悪な物を見せるお積もりですの？と、言いたい所ですが万が一の為に確認させて頂きますわ。」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1999z/

異端の抹殺者

2011年12月8日02時47分発行